41 水田の汎用化と高収益作物の導入によりキラリと輝く地域へ

【佐賀県・嬉野市（うれしの）】 81

○ 暗渠排水の整備により高収益作物の導入が可能となり、女性や高齢者が幅広く活躍。
○ 基盤整備を契機に農地集積を進め、12の集落営農組合から５つの農事組合法人へ移行。
○ 区画拡大により作業が効率化し、収量増加や契約栽培、労働時間減少など営農体系の好転換。

取 組 前

水利施設の老朽化と大型機械への対応

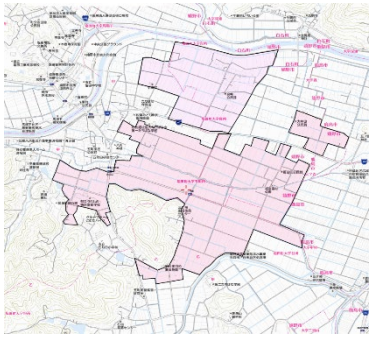
塩田東部（しおたとうぶ）地区

【営農規模】147ha
【受益戸数】270戸
【作付面積】主食用米：110ha
（酒米好適種：15ha）
麦類：123ha
大豆：33ha
たまねぎ：3.7ha

・降雨時の排水対策や水路法面の強化、大型機械に対応した農道の整備の要望。

暗渠排水の機能低下による排水不良

・ほ場整備後、30年近くが経過し、暗渠排水の機能低下による育成不良。



取組内容

用排水路、農道の整備

経営体育成基盤整備事業
（H16～21）
・農業用用排水路、農道整備

6つの集落営農組合が誕生 → 基盤整備を契機に農地を集積

多面的機能支払交付金の取組

１０の活動組織が取り組んでいる

集落営農組織から法人への移行

将来への危機感を背景に集落営農組合から5つの農事組合法人へ移行

暗渠排水、区画拡大

農業基盤整備促進事業等(H24～30)
・暗渠排水

農地耕作条件改善事業（H28～30）
・区画拡大

後継者の育成

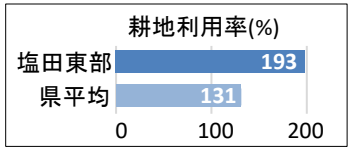
農地中間管理機構の活用

取 組 後

高収益作物の導入による経営の安定と女性の活躍

塩田東部（しおたとうぶ）地区

【営農規模】147ha
【経営体】 農事組合法人アグリ三新（他4法人）
【作付面積】主食用米：77ha（酒米好適種：24ha）
飼料用米：2ha
大豆：63ha
麦類：136ha
たまねぎ：3.2ha
キャベツ：1.4ha



○ Ａ法人ではキャベツ栽培を契機に女性部を創部。女性や高齢者を新たに雇用し、法人経営に女性の意見を取り入れる。

地元企業との連携

加工会社とキャベツの契約栽培

観光資源との連携により地産地消と付加価値を生み出す

地元の酒造会社と酒米「山田錦」の契約栽培による地酒づくり

農産物のブランド化へ

狭小な農道

排水不良の農地

◆ 誰がどのように・・・？

基盤整備を契機に集落営農組合が誕生し、12の営農組合が構成員となり連絡協議会が設立。協議会では、その運営を通じて問題点を共有する中で、農業者の減少、高齢化による地域農業の将来に対する危機感から法人化への機運が高まった。

きっかけ

ほ場整備から相当の年数が経過
施設の老朽化や大型機械への対応

Step 1　（H16～21）

地域の基盤整備

○ 降雨時の排水対策や水路法面の強化、大型機械に対応するため、土地改良区が県営事業を要請し、農業用用排水路の整備や農道の拡幅のため県営事業に着手

Step 2　（H16～）

地域のまとまり

○ 基盤整備を契機とし、農地の集積を推進するため、塩田東部地区内に６つの集落営農組合が誕生

○ H19には嬉野市内12の集落営農組合が構成員となり「営農組合連絡協議会」が立ち上がり、相互の情報共有

Step 3　（H24～）

法人化へ向けて

○ 水田農業の担い手不足が懸念されることから、農地の受け皿となる法人化を推進

○ H27.3月以降、5つの法人が設立

女性部研修会の様子

	男性	女性
～30代		
40代	5	
50代	8	1
60代	7	2
70代～	6	6

法人化後の雇用人数（法人A）

☆ 将来への強い危機感を背に…

将来的な担い手不足に対する危機感を背に、先祖伝来の農地を未来に残すため、集落の代表者が農地所有者と議論を重ねた結果、法人を設立し、中間管理機構を活用した担い手へ農地集積

Step 4　（H24～）

汎用化と大区画化

○ 排水機能低下による生育不良のため、暗渠排水の再整備により機能が回復

○ 作業の効率化のため、畦畔除去等により区画を拡大

○ 整備によって作業が効率化され、農地の受け皿となる法人化を促進

法人設立 H27.3

Step 5　（H27～）

高収益作物の導入

○ 汎用田における加工用キャベツ栽培が全国的に普及する中で、大区画化により生じた労働力を活かしてキャベツ栽培に着手

○ 水田の汎用化や大区画化、農地中間管理機構の活用により担い手への集積が進み、高品質な酒米生産のための作付の調整が可能

○ 地元企業との契約栽培により所得が増加し経営の安定につながる

○ 地域の観光資源との連携により地産地消と付加価値を生み出す

今後の展望

「田植え」を後継者育成の場へ

将来に向けて

☑ 担い手による集積率をさらに向上させ、低コストで高収益を望める作物の生産を増やし、担い手の経営の安定化を図る

☑ 酒米づくりの生産法人が設立（H29）され、作付面積の拡大と高品質な酒米生産による「山田錦」のブランド化を目指す

☑ ６次産業化による加工品の製造販売、高齢者や女性の雇用拡大といった地域の活性化を図る